

# おあしす



特定医療法人 南山会

親切 安心 信頼

峡西病院・峡西老人保健センター・きづな  
・アルプス訪問看護ステーション

2020 12

第34巻12号  
(通巻400号)

祝★第400号!

新型コロナ騒ぎで明け暮れた一年だった。いつになれば本当の意味での「収束」となるのか今の段階では見通せない。このウイルスのやっかいなところは、感染しても重症化しない割合が高く、何の症状も現わさない人も大勢いるという点である。だから多くの人々が、なんとなく不安という穏やかな恐怖にとりつかれる。不安は人間が進化の過程で身につけてきた生存に必要なシグナルだ。不安は危険を回避するために必要なのだ。問題なのは「行き過ぎた不安」だ。リスクを正しく理解し、リスクと正しく向き合い、同調圧力や社会の分断をいかに乗り越えるかがいま問われている。



峡西病院の理念

「その人らしさ100%」

峡西病院の方針

1  
説明と納得の  
医療

2  
多職種の連携

3  
「こちよさ」の追求

4  
社会参加の推進

広報誌 月刊 おあしす 祝 400号!!

南山会の広報誌「おあしす」が創刊されてから今年9月で33年が経ち、この12月号で第400号となりました。現在おあしすは、入院患者様・老健入居者様のご家族をはじめ、269か所の関係機関に送付させていただいています。読者の皆様からは感想やご意見をいただき、それを励みに広報委員会にて毎月発行に取り組んでおります。

新型コロナウイルスの影響で院内外での研修やイベントが自粛・縮小を余儀なくされ、おあしすに掲載する話題探しにも頭を悩ませていますが、このような中でも途切れることなく南山会の活動を発信していきたいと思っております。今後ともおあしすをどうぞよろしくお願いいたします。

\* 第300号～第400号までの約8年（2012年8月～2020年12月現在）で、南山会ではいくつかの大きな出来事・変化がありました。写真と共に振り返ります。

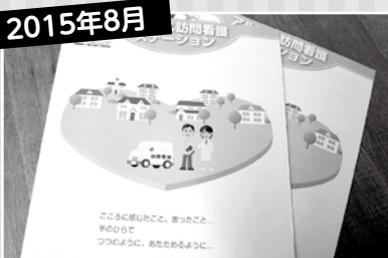
2012年8月



おあしす第300号発行

おあしすに関するアンケート結果が掲載されていました。人気のコーナーは現在も続いている「我が家のペット」や「万華鏡」。

2015年8月



アルプス訪問看護ステーション始動

当院では1994年から外来診療の一環として訪問看護を実施。地域医療をより充実・発展させるために訪問看護ステーションが開設されました。

2015年10月



認知症地域相談センター事業の受託

現在は地域型認知症疾患医療センターに移行。新棟開業とともにCTも導入されました。認知症家族教室の開催など、活動を広げています。

2017年4月



峡西病院ホームページリニューアル

当院の魅力が伝わるようなホームページへと刷新。現在も各部署と広報委員会とで協働し更新作業中です。

2017年5月



地域活動センターさがる館移転

さがる館の引越しを行ない、以前の建物よりも明るく広く、使いやすい環境となりました。

2018年7月



新理事長・新院長 就任

浅川理医師が理事長に、川崎洋介医師が院長に就任しました。就任パーティーでの笑顔が印象的です。

2019年5月



峡西老健「加算型」に移行

在宅復帰を目指し、在宅生活を見据えたりハビ人訪問指導等に力を入れています。今後はより在宅復帰を増やす「強化型」「超強化型」への移行を目標としています。

2020年1月



新外来・精神科リハビリテーション棟 開業

前進していく人たちに惜しみなく協力していけるように「与進館」と名付けられた新棟。開業から早1年が経とうとしています。

2020年6月



喫茶Tenjiku オープン

野菜たっぷりのサンドウィッチ、疲れた時に嬉しいケーキやスムージーなどテイクアウト可能です。当院にお越しの際はぜひお立ち寄りください。

# 令和元年度

# 目標管理発表会



## ◆ 殊勲賞 ◆

峡西老健  
雨宮尚登・石川朋子

### 目標

コンチネンスケアを取り入れ各利用者に合った排泄方法やオムツの提供を検討していく。

コンチネンスケア協会では「排泄に関する悩み、課題を持つ人に対して解決への方向性を導き出すための支援を行なう」とあり、領域は広く、また、新しい物を取り入れる事に対しての職員の反応等を考えながら年間計画を立て実行しました。

### 活動内容

- ・コンチネンスケア外部研修参加
- ・コンチネンスケア法人内時間外研修

・キャラバンメイト主催による排泄ケア研修への参加

・オムツメーカー研修

・陰部洗浄

・排泄チェック表見直し

各研修に参加する中でコンチネンス協会では排泄の状況を解りやすく共有できるようブリストンスケールを推奨していることを知り老健でも導入することを決めました。スケールに合わせ排泄チェック表も変更しました。

### 【オムツメーカー研修】

老健の各階で、講師に排泄介助の現場に来てもらい、オムツやパットのサイズの選定や当て方などアドバイスをしていただく型式で行ない、職員からは「実際オムツ交換を一緒に行なったことで解りやすかった」「具体的な指導をしてくれたのでよかった」等の意見が聞かれました。

### 【陰部洗浄】

清潔保持の観点から陰部洗浄を行ないました。日勤帯の朝の排泄介助時に行ない、職員からは「陰部洗浄を行ない始めてからは皮膚状態が良

くなったと思う」「皮膚トラブルの早期発見に繋がる」「臭いが軽減できた」などの意見が聞かれています。

### 【排便・排尿日誌】

排便、排尿、対象者を1名ずつ出し実施しました。まずカンファレンスを行ない計画を立ててから実行しました。結果、排尿では対象者の排尿量やパターンが明確になり、それに合った排泄誘導ができるようになりました。また、パットも吸収量の少ない薄い物へと変更することができました。

### 【1階、事例として】

尿失禁による尿臭と、排便は浣腸を毎回使用し、介護抵抗があり、家族が対応困難となり、期間入所されたご利用者様の事例です。

定時にトイレ誘導を行なう事で、尿失禁・尿臭は気にならなくなりました。尿測をする事で日中、夜間の排尿量が分かり使用するパットもご本人様に合わせたパットを提供できました。

排便は腹圧が掛けられない為、自然排便は難しく、医師・薬剤師・看護師に何度も相談をし、お薬が変わるたびアセスメントをしました。介護にできる事は何かあるか考え、作業療法士・理学療法士に相談しました。毎朝冷たい水をコップ一杯飲み、腹部マッサージを自ら行なえる様に声かけをしました。大きな声で話し

をしたり、トイレ誘導時歩行しながら、一緒に歌を唄ったり、足上げをしたり、腸の蠕動運動の音を確認したりと生活の中でできる事を行ないました。排便日誌を付けることで便の形状・時間帯が分かりました。その結果、自力にて有形便がでるようになりました。ご本人様に笑顔が多く見られるようになりました。

### まとめ

### 【薬剤課より】

亜鉛華アズノール、テレミン坐薬、浣腸の量が減ってきているとの報告がありました。これは、これまでの取り組みが定着してきているのだと実感すると共に、薬剤が減少していることから職員の処置にかかる時間や利用者への負担、それにかかる面でも軽減でき、各所に良い影響が出ていると実感しています。

### 【今後について】

令和1年度は係りとしての活動でしたが令和2年度より介護、看護、OT、相談員、デイケア等の多職種メンバーによる排泄ケア検討委員会が構成される事となりました。最初の1年間はメンバーでコンチネンスケアを勉強する期間とし、より良いケアを提供でき、穏やかな入所生活を送っていただけるよう共に学んで行きたいと思えます。

## 秋のイベント



10月24日(土) 芝生広場にて秋のイベントが行われました。

前日まで雨が降っており、外での開催を心配していましたが、当日は秋晴れであり、気持ち良く行うことが出来ました。

例年は患者様のご家族やご近所の方達も招き参加頂くのですが、今年はコロナ禍という事もあり、規模を縮小し、院内だけの開催となりました。それでも、各病棟より94名と、多くの方が参加されました。

また、ハロウィーンの時期という事もあり、入り口にはジャックオーランタンの大きなバルーンアートを設置し、参加者の気持ちが盛り上がるように工夫しました。

かぼちやの重さ当てクイズ、射的、福引といった種目を行い、さつまいもやかぼちやのプリンなど秋を感じられるスイーツが提供されました。その他ポテトやチキンナゲットを食べ、お祭り気分を楽しんで頂きました。

規模を縮小しての開催でしたが、コロナ禍が落ち着いた際には、患者様のご家族やご近所の皆さんに再びご来場頂き、峡西病院やその取り組み、職員の顔を知って頂き、安心して来院出来る場にしていけたらと思います。



## 峡西病院と企業との連携を考える研修会



近年企業に勤めながら生活をする中で、会社や家庭での様々なストレスにより心の健康を崩す方が増加傾向にあります。

当院では、各企業の健康管理担当者との連携を図り、ご本人の治療やリハビリがスムーズ、且つ適切に受けられる体制を目指しています。そこで、平成27年より「峡西病院と企業との連携を考える研修会」を実施してきました。今年度は10月26日に開催し、7か所の企業や行政機関の担当者にご参加いただきました。当院川崎院長より「精神科リハビリテーションの重要性」について講演があり、ディケアスタッフより「峡西病院の復職リハビリ(リワーク)」を情報提供しました。その後、今年1月に竣工した「与進館」の内覧会を開催致しました。参加された企業からは、産業医と主治医の連携や復職の判断についてなどのご質問を頂き、意見交換を行うことができました。企業と病院の担当者が顔を合わせ、お互いの状況を共有しあうことが連携の第一歩だと感じています。

参加者から今後も定期的な開催への希望も聞かれており、利用しやすい病院を目指し、研修会を今後も続けていきたいと思っております。

# ろうけん Times ★

老健2階では運動会が開催されました。職員、利用者様一丸となり頑張りました。



# 本の紹介コーナー

今回は、アスピール病棟 看護師望月裕太さんにおすすめの本をお聞きしました！

## 本の題名：岳

(石塚真一／小学館／2005年6月1日〈第1巻〉～2012年9月4日〈第18巻〉)

### ●読んだきっかけは？

両親の趣味が山登りで、勧められて読み始めました。

### ●おすすめのポイントは？

ビッグコミックオリジナルで連載されていた漫画で、山岳救助を中心とした物語です。

主人公は北アルプスで年中テント泊をしながら山岳救助ボランティアとして活動しており、県警の山岳救助隊と協力して遭難などの救助に当たっています。

近年は登山ブームもあることから山の美しさや素晴らしさを伝える作品は数多くあり、この作品でも主人公が山に住みながらその生活を堪能している様子が描かれています。その一方で遭難現場では、雪崩や雷などの大規模な災害だけではなく、ちょっとした落石や足の踏み外しなどふとしたアクシデントでさえも容赦なく人の命を奪う現実を突きつけられます。あっけなく登場人物が亡くなるシーンは登山の恐ろしさを伝えてくれますが、その上で「山が好きだ」という主人公の気持ちも強く書かれており、山に登る事がどういうことかを考えさせられます。登山をしている方、これから登山を試みようという方は一度読んでみてはいかがでしょうか。

特定医療法人南山会は常によりよい医療を行うことによって、地域社会に貢献することを目的として設立されたものである。職員は常に技術の向上に心掛けるとともに、知性を磨き品性を養い、自己の人間形成に努めるべきである。

### ■ 職業倫理

1. 患者の人格の尊厳と権利を尊重し、心のこもった対応をして信頼を得ること。
2. 最善の医療を提供するために、常に学術的知識と技術の習得に努めること。
3. 自らの義務と責任を自覚して人格を高めること。
4. 職場内外の医療専門職の権利を尊重すること。
5. 医療の公共性を重んじて地域社会に貢献するとともに、法規範を遵守すること。
6. 良質の医療を提供するために、自ら心身の健康保持と増進に努めること。
7. 精神障害者に対する理解を深め、精神障害者とその障害を克服して社会復帰をし、自立と社会経済活動への参加をしようとする努力に対して協力すること。

私はゆつくりと景色を楽しみながら自然の中を歩くことが好きです。母方の叔母が、山登りが趣味で一緒に高尾山に何度か行ったことがあり、その時のことを書きたいと思います。叔母と歩いた高尾山は、東京都八王子にある標高599mの山です。日帰りで楽しむことが出来て、山頂へは登山道が整備されているため歩きやすくなっています。山頂へ辿る主なルートには、自然研究路の1〜6号路や稲荷山を巡るコースなどがあります。その他に『いろはの森コース』というコースもあり、歩いたことがあるという方もいらっしゃるでしょう。このコースは、いろは48文字

## 私の趣味

の頭文字で始まる木が植えられており歩いてみると木の名前が書かれた説明板があり、木に因んだ和歌が書かれている板もあり楽しませてくれます。高尾山はルートによって景観が異なり、歩くたびに新鮮な気持ちになります。季節によっても咲いている花や草木の印象が異なり、行くたびに違う顔を見せてくれます。また、頂上に到達して景色を眺めながら食べるおにぎりやパンなどの軽食がいつも格別に美味しく感じ、頂上や休憩しながら食べることも私の中の楽しみの一つです。

栄養グループ 佐野 里実

# 万華鏡

## 「スーパーヒーロー」

ワーママ、イクメン、ワンオペ、そんな言葉を耳にする機会が増えた今日この頃。私の役目は時に看護師、時にお母さん。目覚めと共に一応に家事を済ませ家族全員を見送る。下校する子供を思い浮かべながらそれぞれに手紙を残すのが出勤前の日課だ。出勤後は外来業務に取り組み。それはそれは表に出る者への風当たりは強い。とはいえ沢山のご意見は無視されることよりどれだけありがたい

たい事か、そう感じながらやるべきことをこなしていく。定時の鐘が鳴りあつさり看護師の役目を終えるのは、せわしない任務に追われるからだ。期待通りに放り出された靴と教科書。帰宅と同時にあのねそれでねトクに襲われる。裏切られ続けるゲームと引き換えの約束の数々。丸付けしたはずの宿題も教員ペンで直され親子共々恥をかく始末。学校からの着信はたいに誰かに謝る出来事。近所に通報されそうな程のケンカに家中の窓を閉めて回る。部活や友達、授業の話に付き合ひ、良かれと助言したつもりが地雷を踏んでキレられる。宿題チェックと連絡帳へのコメントが済み、今日の母の役目が終わる頃、翌日の弁当持ちを宣告され予期せぬ事態に消沈し床に就く。我が子が幼い頃は相手をすると

という感覚だったのが、今は向き合うという感覚だ。子供達がそれぞれの発達課題に直面するように、私もこれだけでいいのかと悩み、こんなもんかと慰めよく頑張っているよと褒めながら、目の前の山積みの課題と戦っている。看護師になり結婚し、仕事を続けながら子を育て、休むことなく全力疾走だった。考えが及ばず難しかったことも、いろんな体験を経てきた今だから思う。誰が偉いとか誰が大変とかではない。世のお父さんもお母さんも人生の先輩も、年齢相応の課題や今やるべきことを同時進行しながら置かれた場所で頑張っている。働くことも子育ても完璧にやることがなくなるとスーパーヒーロー並みの偉業なんだ。

外来グループ 石川 純子

## こちら編集室

昨年の冬、新型コロナウイルスの二ユースを初めて見た日から、一年が経とうとしています。海外から国内へあつという間に感染拡大し、今年は新しい生活様式となる激変の一年でした。旅行や写真、音楽フェス・ライブが好きですが、今年は海外旅行を取りやめ、観光スポットへの外出も自粛。おうち時間では、リモートライブでアーティストを応援し、また読書や映画鑑賞に時間を費やし、休日のはんびり過しました。行きたい場所へ出掛け、やりたい事がいつでもできる日常。それが当たり前だと思っていました。が、そうではない世の中へ変わってしまった。当たり前がいかに幸せなのか、有り難いことなのか、と改めて気付かされました。【Withコロナ時代】。皆さんはGOTOキャンペーンを活用されていますか。私はGOTOトラベルでの予約を取り、GOTOイートの食事券購入をしました。感染対策をしっかりと行い楽しもうと思いましたが、先が見えないことに対するストレスもありますが、心も身体も前向きに健やかでいられるように、思いやりと支え合いを大切にしていきたいです。今年も残り一ヶ月。年末に向けてクリスマスや年越し準備など、何かと忙しい時期になりますね。段々と寒さも厳しくなりますが、風邪やインフルエンザ、コロナに負けず、皆さんが元気に過ごせますように。

今月の予定 12月

- 8日 行動制限最小化委員会
- 10日 クリニカルパス委員会  
治療プログラム委員会
- 16日 広報委員会
- 17日 病院行事「クリスマス会」

※12月31日～1月3日まで休業となります。

今月の一枚



土曜日にデイケアを利用して  
いるメンバーで制作した  
コスモスです。全てお花紙  
で作りました。  
ピンクのコスモスが可愛らしく、  
デイケアが華やかな  
雰囲気になりました。

おあしす広場

今月もおあしすに素敵な作品が寄せられました。

着ぶくれや 歩く姿が 亀歩き 石川 理

浮き上がる血管老いた大根足 石坂 克巳

子どもの日 父さん元氣 ありがとう 今福 和人

窓外の 東に向いて 来光差し まばゆい陽差し ガラス戸いっぱい 大森真知子

気忙しい おもう師走の 早さかな 恵 風

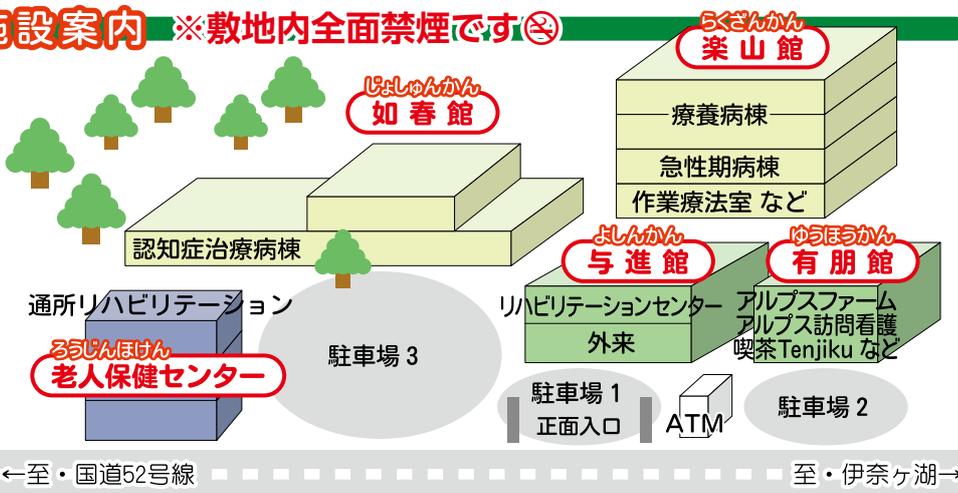
秋晴れや大根を抜く力こぶ 阪本みずほ

大根や首のあおさで道おしえ 塚原 光明

サンタさん トナカイひいて ソリにのり 渡辺 あき

※掲載は五十音順です。

施設案内 ※敷地内全面禁煙です



交通案内

- JR中央線 甲府駅より車で40分
- JR身延線 東花輪駅より車で15分
- 中央高速 甲府昭和ICより車で30分
- 中部横断道 南アルプスICより車で5分
- 山交バス 甲府-南アルプス市甲西支所行き (十五所経由) 鯉沢営業所行き (西野経由) 鯉沢営業所行き 小笠原下仲町バス停徒歩5分

月刊おあしす第400号 1987/9/5創刊

発行所

〒400-0405 山梨県南アルプス市下宮地421  
TEL 055-282-2151 FAX 055-284-4886  
URL <http://www.nan-zan.or.jp>

特定医療法人 南山会

\* 広報委員会 \*

中山貴、佐藤和加子、土屋真実、保坂夏菜、須田浩紀、  
河西崇子、塩澤千晶、櫻井千恵

次回401号も お楽しみに!